

Life is Connection

特集 | 自治会のある暮らし

自治会の歴史は古く、その起源は江戸時代の五人組制度にあるとされています。戦時体制の強化のために利用された市民組織は、終戦とともに解体されましたが、しばらくして自主的に市民組織が復活。現在の自治会組織へと拡大しました。なぜ、これほど時代が変わっても、自治会は残り続けているのか。それは、互いに支え合って生きることが、暮らしの土台であるということ、私たちは経験的に知っているからかもしれません。誰かのために、あるいは自分のために手を取り合う。

Life is Connection—

自治会があるからこそ生まれる、私たちのまちの“つながり”に触れてみてください。



自治会って何してるの？

自治会費の使い道教えて！

自治会に入るメリットって何？

行政の仕事じゃない？

どうやって加入するの？

何か頼まれるんでしょ…

自治会に対するさまざまな「ギモン」。

少子高齢化や人口の減少、仕事や子育てなどに追われ、地域に関わる時間が少なくなっていることなどの社会的背景、さらに、「人付き合いが面倒」「自分に直接関係ない」などといった考えからくる地域コミュニティの希薄化が、自治会との距離を生み、そもそも自治会のことをよく知らない人が多いのではないのでしょうか。

自治会に関心のない人が増え、自治会の存続ができなくなると、地域の生活環境の悪化や孤立化が進んでしまい、安全・安心な暮らしを維持することは困難になります。

こうした未来を招かないためには、左記のような一つひとつの「ギモン」をひも解き、自治会への理解を深める必要があります。

つながるために、歩み続ける。

Life is Connection 01 コミュニティを越えてつながる地域の輪

地域には自治会をはじめ、社会福祉協議会、まちづくり委員会、教育機関、企業、ボランティア団体など多様な主体が存在します。八郷地区は、これら団体が柔軟に連携し、役割を分担しています。そのため八郷地区で開催される行事は多岐に渡り、たく

さんの地域住民が参加。毎年恒例の名物行事「八郷フェスタ」や、年に1度の八郷地区全体で行う清掃活動「クリーンアップ八郷」など、規模の大きい活動が活発です。このような行事をまち全体で行うことで、多様な世代がつながる機会を創出しています。



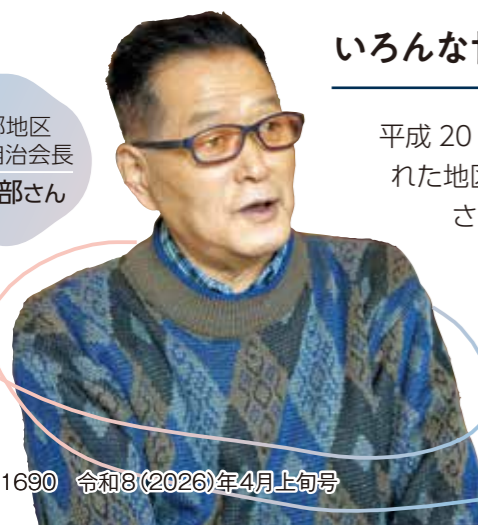
1 2月15日の「八郷早春まつり」でのコマ。昨年の「八郷フェスタ」が雨天で中止になったため、開催された 3 令和6年開催の「八郷フェスタ」
4 クリーンアップ八郷 5 地区行事でふるまう「八郷汁」。使われる野菜の一部やお米は、絆づくり事業の農作業体験に参加した親子が育てたもの

いろんな世代が交流できるイベントに

平成20年の市制111周年を機に始まった「八郷フェスタ」。二つの小学校区に分かれた地区のこどもから大人まで、皆が楽しめる場を提供したいという思いから企画されました。

毎年2,000人の参加があり、八郷地区への転入者も多い中、このイベントは地域のつながりを生む貴重な機会になっています。また、開催に向けて各団体が協力し話し合うことで、八郷地区のことを真剣に考える場にもなっています。まちが一つになるイベントなので、これからも続けていきたいですね。

八郷地区
連合自治会長
春日部さん



仕事や育児の合間に活動に参加する人、他の団体から自治会を支える人。時代の変化に合わせて、それぞれの関わり方を受け入れ、自治会はその地域に最適な形を探しながら、歩みを止めることはありません。

Life is Connection 02 人と人をつなぐ“デジタル”

今までは、紙媒体の提出物やお知らせ、顔を合わせて行う会議が当たり前でした。しかし、デジタル機器の普及や、ライフスタイルの変化、さらにコロナ禍を経て、さまざまなもののデジタル化の機運が高まりました。

ただ、地域で暮らす人はスマートフォンなど電子

媒体になじみがある世代ばかりではありません。自治会という組織を存続させ、次世代に活動をつなぐには、そして多様な世代が快適に暮らすにはどうすればいいか。さまざまな懸念や葛藤がある中で、デジタル化に挑んだのは富田地区の連合自治会でした。

「時間」というハードルを取り除きたい

自治会の担い手不足を解消しようと、昨年4月から、ビジネス向けチャットツールLINE WORKSを導入しました。かつては活動に専従できる役員もいましたが、今は共働きや子育てと両立する人が大半です。「地域のために動きたい」という志があっても、活動時間の確保が大きなハードルとなっています。

そこでまず、連合自治会と各自治会長間の連絡調整をデジタル化しました。加えて、地区市民センターとも協力して申請や報告がオンラインで完結する仕組みを試行しています。もちろん、デジタル化がストレスになる人への配慮も必要です。10年ほどかけて緩やかに移行しながら、どの世代が役員になっても無理なく活動できる環境を作ることが、これからの自治会には不可欠だと考えています。

これからも、テクノロジーの力を借りて「時間のハードル」を下げ、若い世代も気軽に参加できる自治会の形を目指します。

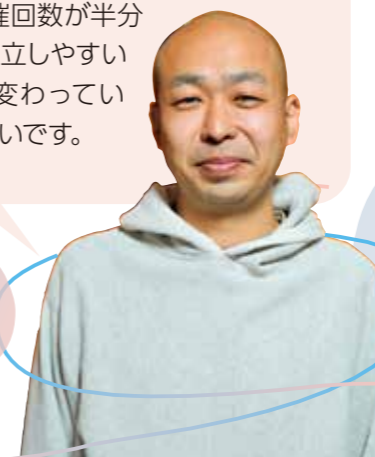
富田地区
連合自治会長
北本さん



自治会長の Real Voice /

自治会長に就任し3年目ですが、働きながら、家庭を持ちながらの自治会活動は、どうしても「時間」が足りません。LINE WORKSの導入により、データでのやり取りはもちろん、細かな情報共有を即時に行うことが可能になりました。また、提出書類の記入例などが投稿されていて、自分で調べたり問い合わせたりする時間が削減されています。デジタル化以外にも、昨年からは定例会の年間の開催回数が半分に減りました。両立しやすい環境にどんどん変わっているので、ありがたいです。

東茂福町
第二自治会長
とももの
伴野さん



1 2 電子回覧板を導入し、自治会活動のデジタル化を先駆けている豊川市を視察。説明会が開かれた 3 地区市民センターとのLINE WORKSでのやり取り

次世代へつなぐ想い

多くの自治会は、高齢化による担い手不足などの問題に直面しています。この問題に真っ向から向き合い、将来の自治会の存続につなげようと、自治会の重要性をこどもたちに伝えている地区があります。

Life is Connection

03

地域がつながる大切さをこどもたちへ



1 日永小学校6年生に自治会の役割について話す井谷さん
2 授業を受けてこどもたちが学んだことや自治会への要望などをまとめた用紙

日永地区
連合自治会長
星野さん



こどもが知らない大人を減らしたい

日永地区の自治会加入率は、市全体と比べると低いです。そこで、まずは自治会を知ってもらうため、こどもにも分かりやすい動画を日永地区市民センターと共に作成しました。その後、日永地区市民センターの声掛けで、区内の小・中学校で自治会について話す時間をもらい、2年連続で実施しています。

小学生と接する機会が増えたことにより、「地区の人」と認識してもらえるようになりました。加入率の悪さもこの活動のきっかけですが、こどもたちが地域に目を向けることで、こどもと大人のつながりが広がってほしいと思っています。

将来、ここに住みたいと思ってほしい

生まれ育った泊町に恩返しをしたい。そんな思いで自治会長を引き受け、星野さんに、小学校の授業で自治会の役割を伝えてほしいと依頼され引き受けました。

授業ではまず日永地区で作成した動画を見てもらい、「ごみ集積所の掃除や防犯外灯がなくなったら、まちはどうなる？」など問いかけます。こどもたちからは「まちが汚くなる」「暗くて危ない」と次々に意見が出ます。対話を通じて、自治会が暮らしの安心を支えていることを実感してもらいます。

また、特に強調して伝えているのは「地域の防災」です。災害時、家族が不在でも、助け合える「横のつながり」があれば命を守れます。この活動を通じ、こどもたちが大人になっても「日永地区は安全・安心」と誇れるような、温かい地域をつないでいきたいです。

泊町
自治会長
井谷さん



自治会のこれから

現在、市内には全728自治会があり、加入率は令和7年4月1日時点で83.7%となっています。市全体で見ると、低くはない加入率ですが、地区によっては70%

を切るところも。この現状から、これから求められる自治会のあり方を、市内の自治会をまとめる、四日市市自治会連合会会長に聞きました。

お互いに助け合い、支え合えるまちを

四日市市の自治会加入率は、年々減少傾向にあり、「自治会は何のためにあるのだろう」と感じる人もいるかもしれません。しかし、自治会を含めた地域のつながりにより、住民同士の交流・触れ合いが深まり、生活がより豊かで円滑なものとなります。

昔から「向こう三軒両隣」という言葉があるように、日頃の助け合いが、安心な暮らしを支えてきました。特に災害時は、ご近所同士の声掛けや支え合いが不可欠です。いざという時に備え、普段から顔の見える関係を築く場として、自治会は大変な役割を担っています。

皆さんぜひ、自分の住むまちに関心を向けてみてください。「自分たちのまちは、自分たちで良くしていく」という思いが広がれば、四日市市はもっと暮らしやすいまちになるはずです。

四日市市自治会
連合会会長
山路さん



もっと地域が活動しやすくするために

自治会を法人化しませんか

今まで、集会所や公民館などの不動産を所有しようとする際、個人の名義で登記しなければならないなど、課題がありました。

自治会が法人化することにより、自治会名義で集会所などの不動産登記が可能になるほか、自治会の契約や資産管理の円滑化を図ることができます。



自治会へのいろんなギモン？

Q 自治会って何してるの？

A 安心して地域で暮らせるようさまざまな活動を行っています。

防犯外灯の維持、高齢者の見守り活動、地域の美化活動、ごみ集積所の管理、イベント開催、防災訓練など地区によって異なります。そして、これらの活動に自治会費が使われています。どれも、行政の手が届きにくい、私たちの暮らしに直結する活動です。

Q 自治会は加入しないとイケないの？

A 自治会へぜひ加入してください！

安心して暮らせる住みよい環境を作っていくためには、自治会の果たす役割は大きいです。本市では、令和2年に「四日市市自治会加入の促進と自治会活動推進のための条例」を施行し、積極的な参加・参画を促進しています。

Q 大変な仕事を任されたりしないの？

A ライフスタイルに合わせて、無理のない範囲で関わって。

まずは、地域のイベントに参加して、顔見知りになることから始めませんか。

Q 加入するにはどうすればいいの？

A お住まいの地域の地区市民センターへお問い合わせください。

自治会については、市ホームページも参考にしてください。

